

今月第18号は六甲部芦屋クラブの島田 恒ワイズにご登壇いただきます。



ワイズ EMC 活動に寄せて

六甲部芦屋クラブ

島田 恒ワイズ

ワイズを含め、非営利組織でも教会でも、高齢化が進み次世代への引継ぎが懸念され心配になっています。

私たちの社会や個人は、今どこにいますでしょうか。わが国を含め、先進国と呼ばれる国々は経済の拡大に最大の関心を寄せています。米中貿易摩擦はナショナリズムの復元を呼び寄せ、わが国でもバブル崩壊以来もう30年、経済成長は平均1%に落ち込み、そこからの回復は成功していません。経済は社会にとって重要な要素であり、豊かさや快適さをもたらしてくれます。しかしながら、経済の成功に偏重するとき(経済成長が芳しくない年月、わが国では「失われた」という形容詞を付しています)、私たちはもっと大切なものを失っているのかもしれない。そのような目に見えるモノだけでは真の豊かさは保証されないからです。

企業の合理化の前に、かつて日本的経営にみることが出来た「居場所」が失われつつあります。社員が仕事を超えて仲間としてつながる場所、居酒屋(居場所を感じることのできる酒場)は形を変え、「わが社」と感じられない非正規社員が4割近くになっています。スマホはみんな持っていたとしても、ホンネでの友情や助け合いは希薄になってきているのです。会社コミュニティから放り出されています。また、定年を迎えた中高年は時間的、体力的、経済的ゆとりを持ちながら、もてあまし活用できていません。

人間にはつながりが不可欠です。日本特有の会社文化(これが戦後の高度経済成長を支えたのですが)が希薄化し、新しいつながりの場所が求められていると捉えることができるのではないのでしょうか。ワイズはそれに応える責任と可能性をもっていると思います。しっかりしたミッションを軸に、貢献し、学び、親しい絆をもつ機会を提供することができる筈です。少し大袈裟に言えば、わが国社会を変え、人間を変革する機会を提供することが期待されていると考えます。YMCA の「みつかる つながる よくなっていく」の現場です。

現実にはメンバーとなってもらうためには、例会を充実させ、「ここに来てよかった」と感じていただくことが大切です。ロコミを大切にしてお誘いし、イベントも開催して「ここに来てよかった」と実感していただける例会の充実が不可欠だと考えます。メンバー全員がそのような気持ちになって、義務ではなくよろこんで協力する組織の素地が基盤になるでしょう。私は、2019-2020年のクラブ会長を務めますが(順繰りでエライわけではありませんー笑)、EMCを大切な課題としてみなさまと共に尽力したいと思っています。

(六甲部芦屋クラブ次期会長)